飛騨農林事務所の普及活動状況（飛騨版）

令和２年２月２５日現在

今月の重点活動

■担い手　青年農業士連絡協議会飛騨支部が GAP 勉強会開催

１月 30 日（木）に岐阜県青年農業士連絡協議会飛騨支部主催の GAP 勉強会が開催された。

勉強会では実際に GAP に取り組んでいる生産者３名を講師に招き、GAP を取り組んでみて苦労した点や良かった点等について講話があった。

今回、若手、中堅、ベテランの各生産者からは共通して GAP を経営改善の１ツールとして活用していき、労働環境の改善を図っているといった話を伺うことができた。

【関心の高かった
ＧＡＰ勉強会】

また、青年農業士からは GAP に関わる業務量についての質問や従業員に対する教育方法について等の実践的な部分で質問があり、今後、より高いレベルの GAP に取り組む必要性を想定して高い関心を抱いていた。

農業普及課は関係機関と連携しながら担い手の育成を支援していく。

多様な担い手づくり

■担い手　令和2年度普及指導計画検討会を開催

飛騨農林事務所農業普及課では、令和２年度普及指導計画の作成に当たり、管内２市１村、ＪＡひだの関係者を交えて検討会を開催した。令和２年度は、平成28年度に策定された５年間にわたる普及指導基本計画の最終年度に当たり、５年間の集大成と、令和３年度以降の更なる飛騨の農業振興のための普及指導活動の方向性を決定する大切な情報交換の場である。

【関係機関と熱心な検討会】

令和２年度は、普及指導課題を担い手、トマト、ほうれんそう、土地利用、果樹、第３品目の６本に絞り、生産者や関係機関と連携を更に強化し、効率的・効果的な普及活動を目指していく予定である。

■ひだあねさ特産グループ　ひだあねさ特産フェアの開催

２月７日（金）～９日（日）の３日間、ルビットタウン高山店内において、ひだあねさ特産フェアが開催された。地元の女性農業者等が地元食材を用いて作った加工品等の販売を行った。今年度は、主催グループであるひだあねさ特産グループに加え、地元で加工品を作って頑張っている人を応援しようと、女性農業者や障がい者福祉施設「吉城山ゆり園」にも声をかけ、一緒に販売を行い、こだわりの加工品や地元食材をＰＲするよい機会となった。

【ひだあねさ特産フェア
での販売】

農業普及課では、加工食品を販売するにあたり必要となる食品表示やＰＯＰ作製の研修を行う等、女性起業化グループの活動の推進に向けて、支援を行っていく。

売れるブランドづくり

■水稲　水稲優良種子生産に向けて

２月３日（月）、ＪＡひだ丹生川支店において、丹生川採種組合の栽培反省会と次年度の作付検討会が行われた。次年度の水稲種子に異品種混入や発芽率が悪い場合があり、農業普及課から合格率 100%を目指して、その原因や対策等について次年度栽培に向けた指導を行った。

また、次年度は退会する生産者が２名おり、その分の生産をどうしていくか、今後も高齢化によりやめていく生産者がいると予想される中、新規会員の募集の検討や当組合の課題等の抽出を行い、今後の生産体制の協議等も行った。今後も優良種子生産に向けて、生産指導を行っていく。

【次年度の生産体制を熱心に検討】

■りんご　りんご剪定（せんてい）講習会を開催

1 月 27 日（月）・28 日（火）に久々野果実出荷組合主催によるりんご剪定講習会が開催された。

講習会には、管内の果樹生産組合から延べ 50 名が出席し、講師が剪定の手法や考え方を交えながら実演し「剪定で枝先まで養分を送り、ホルモンバランスを考えながら樹の勢力を適正に維持する。」などと説明がなされた。

参加者からは、幼木の剪定方法や新品種の剪定方法などの質問が挙がり、活発な質疑応答が行われた。

今後、農業普及課では、生産者の更なる栽培技術向上や産地振興を支援していく。

【りんごの剪定講習会】

■夏秋トマト　高山トマト部会青年部研修会実施

高山トマト部会青年部では、気候に応じた栽培管理で安定高収量を得ることを目的とした研修会を行った。

農業普及課からは窒素肥料の選択による肥効速度の違いや吸収の仕組みについて説明し、梅雨時期や高温環境下でも肥料を吸収させて着果数を確保できる管理を促した。

ＪＡひだの営農指導員からは土壌診断の自己設計について、簡易な手法を紹介し実習を行った。

生産者からは「着果の悪かった時期にやってみる」や「土壌改良設計を難しい計算をしなくてもできる」など、次年度作に向けた具体的な目標をあげる声が聞かれた。

【次年度作への目標が具体的に！】

農業普及課では、今後も地域の担い手である若い生産者中心に技術力の向上を図っていく。

■夏秋トマト　**丹生川蔬菜出荷組合トマト部会栽培研究班　視察研修**

丹生川蔬菜出荷組合トマト部会栽培研究班では、２月 19 日（水）に栃木県下野市で開催された農研機構が主催するスマート農業ミニ見学会に参加し、高度な環境制御と IoT を組み合わせた最先端の栽培管理手法を研修した。

夏秋作型のトマトに直接導入できる機器は少なかったが、労務管理に関する最新情報や栽培環境の適正化にむけた取り組みは得るものが多いとの意見が挙がった。

農業普及課では、次年度栽培にむけた栽培研修や巡回技術支援の中で、栽培環境整備の重要性や情報機器の活用方法について情報提供する予定である。

【高度な環境制御の視察】

■夏秋トマト　**吉城・高原マルハナバチ研修会を開催**

２月21日（金）、吉城・高原地区のトマト生産者を対象にマルハナバチ研修会が開催され、生産者16名が参加した。

吉城・高原地区では今年度の８月は出荷が集中し、ホルモン剤による着果処理ができないケースが散見されたことから、マルハナバチの導入により着果処理の労力を削減しようという機運が高まっている。特に吉城地区では導入者が少ないため、今回の研修会ではメーカーを招へいし、クロマルハナバチの生理生態や導入上の注意点などを学んだ。また、農業普及課では飛騨地域における地区別のマルハナバチ率や着果処理の重要性について紹介し、導入推進を促した。

【メーカーから導入上の注意点を学ぶ生産者達】

農業普及課では今後、関係機関とともに導入農家の巡回や現地研修会を開催し、トマトの安定生産に向け、マルハナバチの導入、定着を図っていく。

■ほうれんそう　**全体勉強会で今年度の取り組みを報告**

１月 30 日(木)、ＪＡひだ本店にて飛騨ほうれんそう部会の全体勉強会が開催された。農業普及課からは今年度から導入が始まった軟弱野菜調製機の導入効果並びに今年度行ったアンケート調査（ゴウシュウアリタソウの発生状況、土壌消毒後の生育不良）について調査結果を報告した。ゴウシュウアリタソウについては発生割合が徐々に拡大しているため適正な処理を呼び掛けた。また、土壌消毒に関しては乾燥気味での処理が増加していたため、農薬メーカーを招いて農薬のかしこい使い方について研修を行い、適正な土壌消毒について再確認した。

温暖化の中で病害虫の発生の前進化も懸念されているため、農業普及課では的確な病害虫防除につながる情報提供を行っていく。

【農薬のかしこい使い方を研修】

■宿儺かぼちゃ　**飛騨高山・食の匠推進協議会運営会議を開催！**

【あいさつする研究会長】

宿儺かぼちゃ研究会主催で、飛騨高山・食の匠推進協議会運営会議が２月 13 日(木)に高山市丹生川支所で開催された。

飛騨高山・食の匠推進協議会は、宿儺かぼちゃ研究会、イオンリテール(株)、飛騨農業協同組合、高山市及び県が、地域の食文化を保存・継承し、地域活性化を目指すことを目的として平成 24 年に設立された。

今回の運営会議では、各構成員より本年度の出荷・販売状況や活動が報告され、農業普及課からは、各種研修会や目揃え会における腐敗果及び日焼け果対策等について報告をした。また、イオンリテール(株)からは、次年度はより広範囲な販路を開拓する計画が報告された。

農業普及課では、次年度も地区別栽培研修会や個別巡回における栽培管理指導や、行事等への参画により宿儺かぼちゃ研究会の活動支援を行っていく。

住みよい農村づくり

■水稲･朝日町認定農業者　**WCSイネの広がりを契機に朝日町の水田農業の将来を考える**

【専用品種は巨大！】

高山市朝日町では、１月 31 日に地域の耕種・畜産両方の認定農業者を約 30 名集めて地域の水田農業の将来を考える研修会が開催された。この地域では耕種農家が約 15ｈａでＷＣＳイネを生産し、畜産農家が刈り取り、ロール化する体系で利用されているが、今回の研修会で農業普及課や農業革新専門員から完熟堆肥の利用、専用品種の特徴、高性能乳酸菌の利用などの情報が提供された。

参加者の関心は高く、狭小農地の拡大整備の必要性や耕畜共にメリットのある良質なＷＣＳイネ生産方法について理解が深まったという感想が多く聞かれた。

農業普及課では、今後も朝日町の水田農家の将来像を実現できるように支援していく。